

すくすく

たけのこキッズ

第13号



川崎こどもクリニック

〒597-0102 貝塚市木積656-7

電話：0724-21-2033

http://www.kawasaki-kc.jp

平成17年5月11日発行

夏かぜちらほら

4月の新学期当初はかぜの方も少なかったのですが、月末にかけて増加しました。連休が明けて、また、かぜは一段落しているようですが、徐々に増えてくるものと思います。また、夜尿症などもこういうかぜの少ない時期には時間がとりやすくなりますので、御相談下さい。



必要なときに抗生剤

(当院ホームページ医療相談掲示板より改変)

当院での抗生剤の使用はおそらく他院での平均的な処方より少ないものと思います。また、ちょっと難しくなりますが、出している抗生剤の種類もセフゾン、フロモックスといったセフェム系ではなくて、ペニシリン系（例えばワイドシリン）やマクロライド系（例えばリカマイシン）と呼ばれる抗生剤が多いものと思います。これは、現在非常な勢いで増えている耐性菌をこれ以上増やさないという目的のためです。



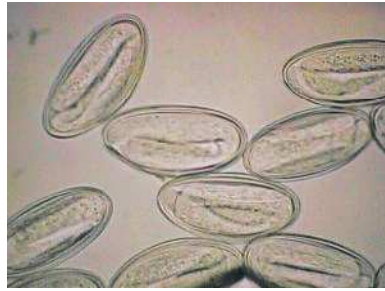
いわゆる風邪は、ほとんどがウイルスの病気であり、抗生剤は全く効きません。抗生剤は別のもう少し正確な言い方をすれば「抗菌薬」、すなわち菌を殺したり、増殖を阻止したりする薬です。したがって、熱が出たから即抗生剤というのはナンセンスなのです。中耳炎も軽度であれば抗生剤を飲ませる必要がないという論文もあります。みだりに抗生剤を飲ませると下痢をするなど副作用だけが表に出てしまうことにもなります。そのようなわけで当院では、「熱が出ているから抗生剤」ではなくて、「抗生剤が必要だから抗生剤」となるよう努力しています。例えば熱がなくても溶連菌の感染などの場合はしっかり10日間抗生剤を飲んでいただいています。



もし不適切な抗生剤の使用を続けると、抗生剤の効かない菌すなわち耐性菌増加がおこります。それにより万が一の際、例えば耐性菌が頭蓋内に入って化膿性髄膜炎となれば、効果のある抗生剤がなく救命できないということも起こります。新しい抗生剤の開発をすればよいという耐性菌は抗生剤を飲んだりやめたりというように漫然と飲むことによって増えやすくなります。医師から処方された抗生剤はその日数以内にきっちり飲みきることが肝腎です。残しておいて熱が出たときに1回飲ませて様子を見るというのは、何のメリットもありません。

蟯虫症と言われたら

例年、この時期は何人かの方が「学校で蟯虫検査に引っかかりまして. . .」と来院されます。蟯虫は白色をした寄生虫で、メスは体長8~13mm、オスは2~5mm程度です。成虫のメスは、就寝中に産卵のために肛門の外



に出て、一時間の間に1万個ほどの卵を肛門の周囲に産み付けます。

この時、肛門周囲に激しいかゆみを起こします。そのため、無意識に掻いた手指に卵が付着し、下着、布団、あるいは畳や床のうえに散らばり、家族や保育所などで感染します。手などを介して飲み込まれた蟯虫卵は、約45日で成虫となり、2ヶ月前後でまた産卵するようになります。（上は蟯虫卵の顕微鏡写真）

蟯虫卵が見つかったら、すみやかに駆虫することが大切です。集団生活の中では、個人で駆虫しても他の人が駆虫しなければ再感染のおそれがあるのでその集団全員での駆虫が必要です。すなわち家族内でも子どもが駆虫薬を服用するときに合わせて家族全員がそろって服用するよう心がけることが大切です。クリニックでも駆虫薬は処方しますし、薬局でも駆虫薬が市販されています。この駆虫薬は蟯虫の筋肉を麻痺させて便とともに排泄させてしまうという作用があります。しかし、成虫に比べて幼若虫に対して効果が薄いようです。したがって、1回のみ服用するのではなく、幼若虫が成長した7~10日後（成虫となって卵を産み始める前という意味です）にもう一度服用するのが最も良いでしょう。その間、床や畳はよく掃除機をかけること、シーツ、布団の日光消毒、また毎日の下着交換、洗濯などや手指の爪を短かく切っておくなどで蟯虫の再感染を防止して下さい。そして、最初の投薬から2~3週間後に再び虫卵検査を実施して駆虫が出来ているかを確認することになります。



ご希望の方に「すくすくたけのこキッズ」を電子メールの添付ファイルとして毎号送らせていただいています。メールで info@kawasaki-kc.jp までご連絡下さい。ホームページからもご覧になれます。また、バックナンバーをご入り用の方はお申し出下さい。